



Emergency Watch

発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター



2012年 10月受診者数：2051人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

- | | |
|-------|-----------------|
| 1. 発熱 | ： 916人 (682人) |
| 2. 咳 | ： 831人 (249人) |
| 3. 嘔吐 | ： 610人 (388人) |
| 4. 鼻汁 | ： 581人 (23人) |
| 5. 下痢 | ： 299人 (66人) |

疾患頻度

- | | |
|------------------|--------|
| 1. 急性上気道炎・咽頭炎 | ： 590人 |
| 2. 感染性胃腸炎 | ： 550人 |
| 3. 気管支喘息・喘息性気管支炎 | ： 222人 |
| 4. 気管支炎・肺炎 | ： 115人 |
| 5. グループ | ： 114人 |



今月のワンポイント！

10月から11月に入ると、肌寒い日が続くようになりました。冬のインフルエンザの流行に備え、11月になり予防接種が始まっております。任意の予防接種ではありますが、お子さんだけではなくお父さんお母さんも接種し、感染予防を心がけましょう。

さて、10月の神戸こども初期急病センターへの受診者数は2051人でした。8月、9月に引き続き、大きな感染症の流行もなく、比較的少なめの受診者数でした。前月と同様に発熱の患者さんが多く、その多くは、「かぜ」の患者さんでしたが、嘔吐の患者さんは、前月335人から610人に増加し、感染性胃腸炎が増加してきているようです。感染性胃腸炎は、ロタウイルス、ノロウイルスなどによるものが多く、以前より冬に流行する「おなかのかぜ」として広く知られていますが、それ以外の季節でも注意が必要です。感染症情報センターの情報では、8月が最も少なかったのですが、その後少しずつ増加してきているようです。これから冬にかけて、例年感染性胃腸炎の増加がみられます。

RSウイルスは、例年冬になると流行するのですが、今年は9月頃に流行がみられました。そのピークは少し過ぎたようですが、これから冬に向かって再度流行する可能性があります。0-1歳では、重症化しやすく、入院することも稀ではありません。咳などの呼吸器の症状がみられた時は要注意です。最近は簡易検査法で、外来ですぐ診断できますので、早めに小児科を受診するように心がけましょう。

11月に入り、当センターへの受診患者数は増加してきております。感染性胃腸炎、RSウイルス、インフルエンザなどの感染症は、これから本番です。手洗い、うがいなど、基本的な予防対策を、しっかりとるようにしましょう。

